

2元1次方程式 $2x + y = 2$ の
 x の値に対応する
 y の値を求めてみると...

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	8	6	4	2	0	-2	-4	...

2元1次方程式 $2x + y = 2$ を
成り立たせる x, y の値の
組み合わせは無数に存在する。

この x, y の値を座標とする点を
できるだけ多くとると…

x の値を決めると
 y の値もただ1つ決まるから
 y は x の関数であるといえる。

また、 $2x + y = 2$ を
 y について解いてみると…

$$2x + y = 2$$

$$y = -2x + 2 \text{ となるので}$$

傾きが -2 、切片が 2 の直線である。

この直線を

方程式 $2x + y = 2$ のグラフという。

違う方法でも考えてみよう！

直線のグラフは2点がわかれば
かくことができるので

$$2x - 3y = -6 \text{ において}$$

$x = 0$ と $y = 0$ のときを考える！

$x = 0$ のとき

$$2x - 3y = -6$$

$$0 - 3y = -6$$

$$-3y = -6$$

$$y = 2$$

➡ $(0, 2)$ を通る

$y = 0$ のとき

$$2x - 3y = -6$$

$$2x - 0 = -6$$

$$2x = -6$$

$$x = -3$$

➡ $(-3, 0)$ を通る

つまり！！

$(0, 2)$ と $(-3, 0)$ を
通る直線をひけばよい！

ちょっと変わったこんなグラフも…

方程式 $2y = 6$ って

一体どんなグラフになるだろう？

$2y = 6$ とは

$0x + 2y = 6$ の形で表される

2元1次方程式なので

x がどのような値をとっても

y 座標が3である点の集まりになる！

ポイントはここ！

y 座標が3である点の集まりなので
 x の値に影響されることなく
少なくとも点(0, 3)を通り
 x 軸に平行な直線になる！